

# 北陸新幹線 長野の車両センター機能回復にめど

## 3月14日定期ダイヤ復旧

台風19号による被災のため本数を減らして運行している北陸新幹線(長野経由)の定期ダイヤは、JR各社が大規模なダイヤ改正をする来年3月14日に全面復旧することが1日、JR関係者への取材で分かった。水没した長野市の車両センターに、2編成分の列車を止める機能を回復させることで実現のめどが立った。定期検査の設備は復旧の見通しが立たず、大型連休や週末などに運行する臨時列車を含めた復旧までにはさらに時間がかかる。【関連記事23面に】

北陸新幹線は、上越新幹線 なくなる影響が出ている。から同型の「E7系」車両を 関係者によると、新幹線は転用したり、新造のE7系を2日に1度、ブレーキやパン北陸に優先して投入したりして、「仕業検査」をする必要がある。現状のダイヤでは、センターが車両基地としての機能を失っているため、東京―長野間の「あさま」の本数が少

数に戻らず、臨時列車の増発も難しくなっている。J R東の深沢祐二社長は11月6日、北陸新幹線の定期ダイヤについて「本年度末までに100%化を目指す」と表

使えなくなり、検査が不可能になった。仕業検査は新潟市のセンターが代行している。列車を止める線路の復旧作業はダイヤ改正までに終わる。J R東日本と西日本は浸水した北陸新幹線車両10編成をいずれも廃車にする方針で、年内にも解体作業に入る考え。車両を移動させ、レールや電気機器などの線路上の地上設備を点検、線路を復旧させることとしており、必要な工事や部品の調達を急ぐ。現在は長野止まりの列車をセンターに入れることができず、定期ダイヤが被災前の本

## 応急仮設住宅 入居スタート

台風19号災害の被災者向けに長野市が市内4カ所に整備した建設型応急仮設住宅(115戸)への入居が、1日始まった。この日は52世帯(122人)が契約を終え

長野



真新しい仮設住宅に荷物を運び込む長谷川さん親子  
= 1日午後0時35分、長野市徳間

明。同30日以降、東京―金沢―たが、東京―長野間の「あさま」日以降も1本減。臨時列車は間直通の「かがやき」「はくま」は定期の本数が元と比べ、車両不足のため、大幅に少ないか「は定期ダイヤが回復し上下線とも2本減で、12月27日」

## 生活再建へ「やっと一歩踏み出せそう」

て鍵を受け取り、生活再建の願いを胸に新たな住居へ荷物を運び込んだ。【関連記事23面に】市は、昭和の森公園にプレハブ造45戸、市営住宅上松東団地に木造32戸、若槻団地運動広場(みどりの広場)に木造23戸、県営住宅駒沢新町第2団地内にトレーラーハウス15戸を整備。被災者はこの日、市住宅課の職員から説明を聞き、契約を終えて鍵を受け取り、荷物の搬入を始めた。

長野市豊野町豊野の自宅が浸水により全壊した会社員長谷川猛さん(42)と妻の春菜さん(36)は、小中学生の息子2人と同市徳間の駒沢新町第2団地内の仮設住宅に入った。被災後は上高井郡小布施町の春菜さんの実家などを頼り、入居が決まったのは猛さんの誕生日だった11月24日。一家は自宅の改修が済めば戻る予定といい、春菜さんは「住宅が決まり、涙が出るほどうれしかった。これでやっと一歩を踏み出せそうです」と話した。

長野市穂保の自宅が大規模半壊し、昭和の森公園の仮設住宅で夫(75)と生活を始めるリンゴ農家の吉村康子さん(70)は「ゆっくり眠れる場所があるのはいいです」とほっとした様子だった。建設型応急仮設住宅は2日以降の契約分を除き、54戸が空いている。市は市豊野支所を窓口引き続き入居申し込みを受け付けている。

# 仮暮らし 安心と心細さ

## ルポ 千曲川氾濫



引っ越しを終えた小林さん。4畳半の和室に妻の遺影を置いた  
＝1日午後2時58分、長野市若槻団地(林克樹撮影)

### 豊野の男性 避難所から仮設住宅へ 「1人でやっていくしか」

台風19号災害から避難所に身を寄せてきた長野市民の  
応急仮設住宅への入居が始まった1日。濁流にのまれた  
同市豊野町豊野の市営団地から救助され、約50日間、  
他の住民らと共同生活を送ってきた小林接男さん(79)  
も、若槻団地運動広場の仮設住宅に引っ越した。年金額  
みの一人暮らしで移動手段の車も水没。限られた選択肢  
の中で、知り合いのいない仮暮らしが始まった。

【一面参照】

午前9時10分。自主避難所  
分では物件を探せず、収入  
の豊野区事務所最後まで残  
も月6万円余の厚生年金だ  
っていた小林さんは段ボール  
け。事実上、応急仮設住宅  
ベッドを片付け、生活の相談  
に乗ってくれた知人の車  
で約7キロ離れた仮設住宅に向  
かった。鍵を受け取り、新し  
い畳のおいがする2DKの  
部屋に入ると、小林さんは「な  
かなかいいところだね」とほ  
っとした表情を見せた。

市内各所の避難所に行った市  
民は主に、自分で条件に合  
うアパートなどの物件を探  
し、「みなし仮設住宅」とし  
て申請するか、1年間家賃が  
無料になる公営住宅か、2年  
間家賃負担のない応急仮設住  
宅かに移ることになる。  
小林さんは車がないため自

もかびが生え、まだ泥の臭い  
がする。4年前に亡くなった  
妻の息子さんと1983(昭  
和58)年に入居し、大型トラ  
ックやタクシーの運転手とし  
て忙しく働いた。知り合いも  
多くできた。荷物をトラック  
に積み込む時、小林さんは「で  
きるならずっと暮らしたかつ  
た」とつぶやいた。

仮設住宅に戻り、23世帯分  
をひと回りした。知り合いの  
姿は見当たらなかった。避難  
していた豊野区事務所では最  
大21世帯が身を寄せ、互いの  
境遇を語り合い、家族のよう  
に付き合った。区の役員らも  
親身になって相談に乗ってく  
れた。市は仮設住宅でも包括  
支援センターなどが高齢者ら  
への支援を準備している。た  
だ、心細くもなる。

午後2時半すぎ。荷物を運  
び終え、泥の中から見つけた  
妻の位牌と遺骨箱を四畳間の  
テーブルの上に置いた。「や  
っと落ち着いたら」。ひと息つ  
いて、団地の片付けで痛めた  
腰を気遣いながら、真新しい

### 8県42給油所で 一時営業できず 県内5ヵ所

台風19号の大雨による浸水  
などにより、一時営業できな  
くなったガソリンスタンド  
が、少なくとも長野など8県  
の42カ所に上ることが1日、  
全国石油商業組合連合会(全  
石連)への取材で分かった。  
災害時の供給拠点となる「中  
核サービスステーション(S

### 陸自の派遣部隊撤収開始

#### 県内被災地で50日間活動

つめながら、「これから一人  
で少しずつやっていくしか  
ない」。とりあえず、買利物な  
どに欠かせなくなる自転車を  
をほごいていない生活用品な  
どを入れた段ボールの山を見  
た。(佐藤勝)

台風19号災害の県内被災地  
で活動してきた陸上自衛隊の  
災害派遣部隊が1日、撤収を  
始めた。10月12日夜に県が災  
害派遣を要請してから、人命  
救助や不明者捜索、食事、入  
浴の提供など多岐にわたる50  
日間の活動を締めくくった。

長野市内に残っていた部隊  
のうち、北部スポーツ・レク  
リエーションパークでは炊き  
出しを担当した松本駐屯地  
(松本市)の第13普通科連隊  
が機材を車両に詰め込んだ。  
下村直紀・2等陸曹(43)は  
「今後も寒さに負けないでほ  
しい」と被災者を気遣った。

県は11月30日、知事が求め  
た全活動が終了したとして撤  
収を要請。長野運動公園を拠  
点に入浴支援をしてきた部隊  
も2日朝に撤収するという。



機材を車両に積み込む隊員ら  
11日午前10時、長野市北部  
スポーツ・レクリエーション  
パーク

開のめどが立っていないとい  
るもある。

台風翌日の10月13日に営業  
できなかったのは、福島県が  
17カ所で最多。栃木、千葉、  
長野の3県はそれぞれ5カ所  
で、岩手、宮城、埼玉、神奈  
川の4県でも被害が出た。

東日本大震災や熊本地震で  
の混乱を踏まえ、経済産業省  
資源エネルギー庁は、停電し  
ても稼働できるようガソリン  
スタンドへの自家発電機の整  
備を推進。救急車やパトカー  
などの緊急車両に優先給油す

### 水没新幹線 一部設備再利用へ 2編成は客室に水入らず

台風19号の影響で、長野市の車  
両センターで水に漬かった北陸新  
幹線10編成のうち脱線していた2

編成は、客室内に水が入っていな  
かったことがJR関係者への取材  
で判明した。床下の電気機器に被

害があるため10編成は全て廃車と  
する方針に変更はないが、この2  
編成の座席や車内の案内表示、空  
調設備は再利用する方向。最上級  
のグランクラスも使えるという。  
関係者によると、高速で走行す  
る新幹線は、空気圧を使ってドア

を完全に閉める装置を備え、車内  
の気密性を保っている。運行を終  
えた後、時間がたつと圧力が弱ま  
り、ドアと車体の間に隙間ができ  
る。  
脱線した2編成は、停車から浸  
水までの時間が短く、圧力が高い

ままで気密性が維持されて、車体  
内部に水が入り込まず、かえって  
水に浮いて脱線したとみられる。  
ほかの8編成はセンターが浸水  
した後も、停車したレール上で移  
動せずに、客室内の座席肘掛けま  
で水が達していた。